

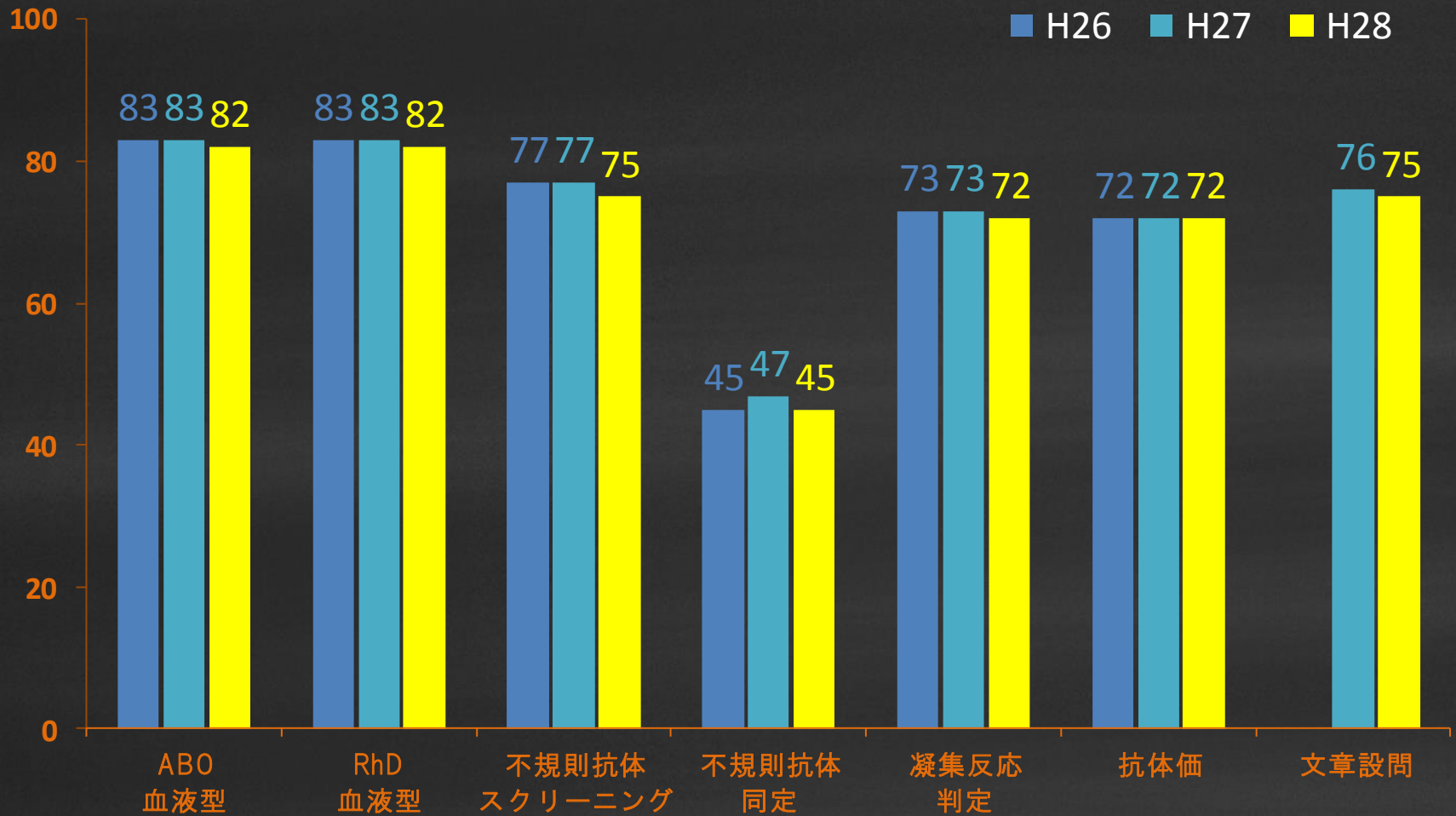
平成28年度 精度管理調査報告

愛知県臨床検査技師会 精度管理事業部員
輸血検査部門 神野 洋彰

- ABO血液型
- RhD血液型
- 不規則抗体スクリーニング
- 不規則抗体同定
- 凝集の強さの判定 ※
- 抗体価 ※
- 文章設問※

※ 評価対象外設問

調査項目と参加施設数



解答：A型

回答施設：82施設

正解率：96.4 %

A 90.3 % (74/82)

B 6.1 % (5/82)

C 2.4 % (2/82)

D 0.0 % (0/82)

※ 1.2% (1/82)

※ 評価不能

ABO血液型 / 調査結果

オモチ検査	ウラ検査	追加検査	総合判定	施設数	%	評価
A型	A型	未実施	A型	56	68.3	A
A型	A型	実施	A型	5	6.1	A
A型	判定保留	実施	A型	13	15.9	A
A型	A型	未実施	A型	5	6.1	B
A型	判定保留	未実施	判定保留	2	2.4	D
A型	A型	未実施	未実施	1	1.2	評価不能

追加検査	追加検査項目				
	血漿 増量	反応時間 延長	Bro 添加	IgM 測定	試験管法 による再検
施設数(延べ)	13	6	1	3	10

注)追加検査項目の重複あり

解答: RhD 陽性

回答施設: 82施設

正解率: 92.7 %

A 92.7 % (76/82)

B — —

C 4.9 % (4/82)

D 2.4 % (2/82)

※ 0.0 % (0/82)

※ 評価不能

RhD血液型 / 調査結果

抗D対照未実施：
4施設(昨年度7施設)

赤血球型ガイドライン改訂1版 4. RhD血液型検査

4.1.3.Rhコントロール(陰性対照試薬)は使用する抗D試薬の添付文書で指定されたものを用いる。

4.2.1.抗D試薬と同時にRhコントロールを用いて検査を実施する。

4.2.2.Rhコントロールを用いた検査は、自己凝集による偽陽性反応に起因する誤判定を防止するために重要である。

直後判定		抗D					
		0	W+	1+	2+	3+	4+
抗D対照	0					3	74
	W+						
	1+						
	2+						
	3+						
	4+						1
	未実施					1	3

RhD血液型 / 使用試薬（試験管法）

抗D血清		対照試薬		施設数		
				H26	H27	H28
オーソ バイオクローン抗D	約7%	オーソ バイオクローンコントロール	約7 %		3	11
		オーソ Rh-hrコントロール	20～30 %	7	7	4
		Rhコントロール「三光」	1 %	1	1	
		Rhコントロール・ネオ	22 %	1	1	1
		イムコアRhコントロール	ヒト由来	1	1	
		モノクローナル抗D ワコー用Rhコントロール	1 %	1	1	1
		オーソ重合ウシアルブミン		1		
		自家製(22%アルブミン)		1		
		自家製(7%アルブミン)		7	6	2
		自家製(6%アルブミン)		1		
		自家製(1%アルブミン)		1		
		未実施		4	5	2
BIO-RAD ダイアクローン抗D	6%以下	BIO-RAD Rhesusu Control	6%以下		1	5
ガンマ クローン 抗D (IgM/IgG)	7%以下	ガンマ クローン 抗Rhコントロール	7 %以下	5	4	2
		イムコアRhコントロール	ヒト由来			1

RhD血液型 / 使用試薬（試験管法）

抗D血清		対照試薬		施設数		
				H26	H27	H28
モノクローナル抗D ワコー	1%	モノクローナル抗D ワコー用Rhコントロール	1%		5	6
		オーソ Rh-hrコントロール	20～30%		1	
		ガンマクロン Rhコントロール(イムコア)	7%以下	1	1	
		自家製(1%アルブミン)		2	2	2
		自家製(7%アルブミン)		1		
		生理食塩水		1		
		その他				1
		未実施			1	1
抗D(IgM)抗体・ネオ「コクサイ」	4%	Rhコントロール・ネオ	22%	2	1	1
		オーソ Rh-hrコントロール	20～30%		1	
抗Dモノクロ「三光」	1%	Rhコントロール「三光」	1%	3	3	3
		自家製(1%アルブミン)		1	1	
抗D両液性抗体・ネオ「コクサイ」	22%	Rhコントロール・ネオ	22%	1	1	

解答：陽性(抗D)

回答施設：75施設

正解率：100 %

A	97.3 % (73/75)
B	2.7 % (2/75)
C	— —
D	0.0 % (0/75)
※	0.0 % (0/75)

※ 評価不能

不規則抗体スクリーニング / 調査結果

生理食塩液法	酵素法	間接抗グロブリン試験	判定	施設数
陰性	陰性	陽性	陽性	2
陰性	未実施	陽性	陽性	7
陰性	陽性	陽性	陽性	21
未実施	陽性	陽性	陽性	35
未実施	未実施	陽性	陽性	10

不規則抗体スクリーニング / 方法別

測定法	施設数		
	H26	H27	H28
試験管法	35	34	28
カラム凝集法(全自動機)	27	31	35
カラム凝集法(用手・半自動)	15	12	12
合計	77	77	75



検査法		施設数		
		H26	H27	H28
生理食塩液法	実施	34	33	30
	未実施	43	44	45
酵素法	実施	61	59	58
	未実施	16	18	17
間接抗グロブリン試験	実施	77	77	75
	未実施	0	0	0

間接抗グロブリン試験の
反応増強剤にアルブミンを
選択: 3施設(試験管法)

解答：抗D

回答施設：45施設

正解率：97.8 %

A 97.8 % (44/45)

B — —

C 2.2 % (1/45)

D 0.0 % (0/45)

※ 0.0 % (0/45)

※ 評価不能

検体：抗D

同定抗体	施設数
抗D	44
抗D 抗M 抗S	1

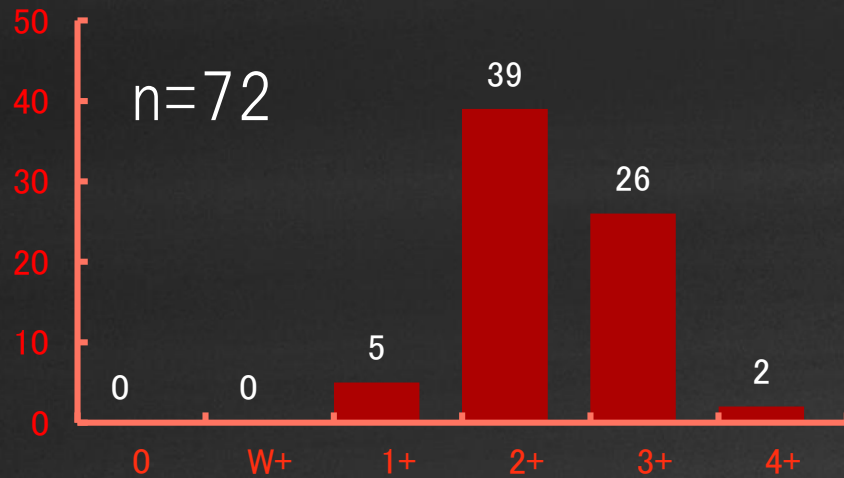


スクリーニング血球のみで
消去法を実施

否定できない抗体が存在する場合は
コメントを残しておくことが必要

凝集の強さの判定 / 抗体価

凝集の強さの判定



抗体価



文書設問1（赤血球型ガイドライン）

解答:[01]E [02]c [04]Fy^a [05]Jk^b [07]M [08]S

正解率:90.6 %

文書設問2

（輸血療法の実施に関する指針及び血液製剤の使用指針）

解答:[03] [05]もしくは[01] [03] [05]

正解率:88.0 %

文書設問3（血小板輸血後の上昇血小板数）

解答:[04] 約32,000/ μ L

正解率:94.7 %

- 基本的な反応が正確に判定できることを目的とし、検査の最終判定結果の評価だけではなく、最終結果に至るまでの過程を含めて評価を行った。
- 28年度精度管理調査は正解率は90%を超え良好な結果が得られた。
- 入力ミスには注意が必要である。
- 測定法、試薬の特性をよく理解した上で検査を実施する必要がある。

- 基本操作の確認を行うとともに問題点改善や更なる検査技術の向上を目指していただきたい。
- 精度管理調査は愛知県下における輸血検査精度の向上をサポートする機会として捉えている。
- 精度管理事業を通じて細やかな助言を行うことで、施設間差是正や各施設の精度管理保証につなげていきたい。
- 輸血部門として、独創性と地域性を生かした精度管理調査を実施していきたい。
- 今後も積極的な精度管理調査への参加協力をお願いします。